



## リハプロ 2010 リスク管理セミナー報告

去る 2010 年 10 月 9 日にリハプロセミナーのうち、若手の PT・OT・ST を対象とした「リスク予測できるリハスタッフになるための「疾患別リスク管理セミナー、基礎の基礎」が催され約 140 名の参加者が兵庫医科大学 3-3 講義室で学びました。種々あるリハプロの中でもリスク管理をテーマとしたセミナーは今回が初めてでしたので、一体どんなことが行われるのかという期待から私も参加させていただきました。当日はあいにくの雨で教室の中は湿度も高く決していい天気とは言えませんが、会場の中は熱気に溢れていました。

まずは道免和久教授より会の主旨の説明があり、次いで亀田総合病院の宮越浩一先生から総論についてお話がありました。宮越先生が刊行に尽力された亀田メディカルセンターリハビリテーション科編集のメジカルビュー社の『リハビリテーション リスク管理ハンドブック』がこのセミナーにおけるテキストとなっています。まず、毎日意識せずに行っているリハビリテーションがリスクと背中合わせであるとの認識に立つことが大事、その上でリスク管理に関する知識はもちろんのこと、情報収集、状況判断・予測、緊急

時の判断、伝達、応急処置など非常に多くのことがセラピストには必要とされる、とお話しされました。そしてリハビリテーション診療におけるガイドラインを症候別に分かりやすく説明していただきました。

その後笹沼直樹先生からは情報収集についての手法について実例を交えてお話しいただきました。「医師の書くカルテの隅々まで、行間を読むつもりで読んでください」という話が出ましたが、それを聞きカルテの書き方について自分はどうかと襟を正されたような気持ちになりました。「読まれるカルテ」ということも意識して今後は記載しようと思いました。検温表・看護記録からの情報収集の重要性については、全く同感で、大切な情報が散らばっていることを深く認識していただきたいと思いました。

昼からは、疾患別各論として勝谷将史先生と寺山修史先生よりの講義となりました。リハの主要疾患である脳血管障害・整形疾患・循環器呼吸器疾患・悪性疾患についてのリスク管理についてお話していただきましたが、こちらも分かりやすく、またチョットした豆知識などもふんだんに取り入れられた面白い講義となっていました。急変時の救命処置については、髻谷 満先生がクリアカットに手順を説明してくれました。髻谷先生のように急変時には沈着冷静に対応したいものだと思いました。

最後には模擬カルテを用いた梅田幸嗣先生の症例検討の講義でした。このカルテは架空のものですが実際のカルテとまったく遜色のないもので、非常によくできており感心しました。また梅田先生の進行の鮮やかさには驚か

### セミナープログラム

司会進行 関西リハ病院副院長 松本憲二 MD

#### 第 1 部 リスク管理総論

9:00~9:10 「はじめに」

兵庫医科大学 リハ医学教授 道免和久 MD

9:10~10:20 「リスク管理総論」

亀田総合病院 リハ科部長 宮越浩一 MD

10:30~11:40 「診療録からの情報収集」

兵庫医科大学病院 リハ部 笹沼直樹 PT

11:40~12:30 昼食

#### 第 2 部 疾患別各論

12:30~14:00 「脳血管障害・整形疾患」

西宮協立リハ病院 リハ科 勝谷将史 MD

14:10~15:40 「循環器疾患・呼吸器疾患・悪性腫瘍」

兵庫医科大学さきやま医療センター リハ科 寺山修史 MD

15:50~16:20 「一次救命処置 (BLS) の基本」

兵庫医科大学病院 リハ部 髻谷満 PT

16:30~17:30 「症例検討」

兵庫医科大学病院 リハ部 梅田幸嗣 PT

リスク管理セミナー  
症例検討

～模擬カルテ～

されました。聴講されていた皆さんも手品を見せられたように感じたのではないのでしょうか。

全体を通せば 9 時から 17 時 30 分までの長い時間ですが、それを感じさせない興味深いセミナーとなっていたと思います。このセミナーを受講していただくことで、リスク管理に関する知識はもちろんのこと、患者のことを興味を持って詳しく知ろうとする姿勢の大切さについて実感していただければ今後の臨床に変化があらわれるのではないかと感じました。新人といわず、多くのセラピストの方々に参加していただきたいと思います。

(石野真輔)

### 目次

- ① ... リハプロ 2010：リスク管理セミナー報告
  - ② ... リハプロ 2010：第 4 回ニューロサイエンスセミナー報告
  - ③ ... リハプロ 2010：高次脳機能障害セミナー報告
  - ④ ... 呼吸リハビリテーションセミナー報告
- 関連職種紹介：薬剤師



## リハプロ2010 第4回ニューロサイエンスセミナー報告

2010年10月9日～10日、兵庫医科大学にて第2回リハビリテーションプロフェッショナルセミナー（リハプロ2010）として、「第4回セラピスト、リハビリテーション科医のためのニューロサイエンスセミナー」が開催されました。このセミナーでは、脳科学の先端に触れながら、リハビリテーションの基本となる運動制御理論や運動学習理論、バイオメカニクス、ニューラルネットワークなどについて、講義と実習を交えて楽しみながら学ぶことができます。これまで多くの参加者を集め賑やかに開催してきましたが、第4回を数える今回も、理学療法士や作業療法士を中心に30名の方々にお集まりいただきました。

講師は、兵庫医科大学リハビリテーション医学教室（兼CRASEED代表）の道免和久教授、リハ科医師で兵庫医科大学大学院高次神経制御系リハビリテーション科学非常勤講師・京都大学大学院医学研究科附属脳機能総合研究

センター臨床神経生理学研究員の小金丸聡子先生、リハビリテーション科学総合研究所主任研究員の吉田直樹博士（工学）に加え、特別講演講師として、ATR認知機構研究所所長・認知神経科学研究室長の今水寛先生をお招きしました。

プログラムは下記の通りでした。

\*

リハビリ医療関係者を対象としたセミナーや講習会は多数ありますが、このセミナーは大変に「独創的」です。日々の臨床では当たり前（？）と思っている現象も、運動制御理論の側面から見直すことでその奥深さを実感することができます。当たり前（？）と思って提供してきたセラピーも、運動学習理論の側面から見直すことで新しい発見が生まれます。日頃から取り組んでいるリハビリ医療が、実は最新の脳科学と深く繋がっていることを再認識できます。「難しそう…、とっつきにくそう…」と思われそうな内容も、

基礎の大事なところから繰り返し説明してくれる講義と賑やかで楽しい実習を通して、喜びに変わります。この喜びを臨床現場に持ち帰ることで、きっと更に大きな学習へと繋がるはずです。今回も、予定の講義&実習のみでは足りなかったようで、休み時間になっても講師陣は参加者に捉まりっ放しでした。こんな交流が、また新しい発見を生むのでしょうか!?

度重なる診療報酬改定などで、様々な方向に振り回されることが多い昨今のリハビリ医療ですが、このようなセミナーを通して、先進科学の応用現場としての「本質的な」リハビリ医学・医療が大きく発展することを期待します。もちろん、私もその1人として微力ながら頑張りますよ!! 今後も年1回の開催が予定されていますので、多くの皆さんが参加されることをお薦めします。Don't miss it!

（藤原 大）

### プログラム

#### < 1日目 >

- 9:30～10:00 オリエンテーション・グループ分け・自己紹介
- 10:00～11:10 講義「プロローグ～運動制御と学習のオーバービュー」（道免）
- 11:20～12:00 講義「運動に関する問題提起の実験」（グループワーク）
- 13:00～15:10 講義&実習「運動制御の基礎」（吉田）
- 15:20～16:20 講義「運動制御理論の論争」（道免）
- 16:20～17:20 実習「運動制御にかかわる実験と考察」（グループワーク）
- 17:30～18:00 グループ発表とディスカッション

#### < 2日目 >

- 9:00～10:00 講義 前半「運動に関する電気神経生理学の知見」（小金丸）
- 10:10～11:10 講義 後半「情動と強化学習」
- 11:20～12:00 講義「運動学習、そして臨床」
- 13:00～14:50 講義&実習「ニューラルネットワーク～情報処理と学習の仕組み～」（吉田）
- 15:10～16:40 特別講演「運動学習の脳科学における最近の話題」（今水）
- 16:40～17:00 全体に関する質疑応答

## リハプロ2010 高次脳機能障害セミナー報告

2010年9月18日、19日に、兵庫医科大学において、「高次脳機能障害セミナー～基礎への理解から地域連携の実際まで～」と題された第2回リハビリテーションプロフェッショナルセミナーが開かれました。連休中にもかかわらず、高次脳障害の患者に関わる可能性のある多くの職種が参加されました(参加者は9月18日211名、9月19日191名)。

まず、兵庫医科大学リハビリテーション医学教室教授 道免和久先生の「脳機能早わかり」から、セミナーは開始されました。患者さんの障害が一般には広く知られていない、目に見えない障害である高次脳機能障害のみであったとしても、多くの生活上の不自由さがあり、リハ医療の重要な対象であることを最近の知見を交えて説明していただきました。導入部分は脳の大まかな機能局在として、前後左右に分け、動かす前方脳、受け取る後方脳、空間的直観的右脳、言語的概念的左脳を捉えることから始まりました。さらに、各論として視覚的な認知障害の種類として、対象物の違いにより顔は相貌失認、道順は街並失認、物体は物体失認、文字は純粋失読に分けてわかりやすく説明していただきました。また、高次の運動障害である観念運動失行と観念失行についても、それぞれの運動制御の経路から明確に説明していただ

きました。他に、失語症、さらに話題のミラーニューロン、前頭葉機能、記憶などテキストを少なくした工夫された視覚的な図解で説明され大変わかりやすい講義でした。

2つ目は、兵庫医科大学リハビリテーション科講師 児玉典彦先生による「脳画像と高次脳」でした。我々リハ科医師の日常臨床でセラピストから受ける質問は、画像所見に関することが多いのですが、回答するには解剖学的な側面のみでなく機能的側面から理解しなければうまく説明できません。この講義ではCTの画像診断として、海馬、言語中枢、中心溝の所在、各脳動脈の灌流域を中心として、各スライスでの見るべきポイントを示していただき、大変記憶に残りやすい印象的な内容でした。また、MRIの項目では、脳梗塞、脳出血の時間経過、MRA、脳灌流MRI、SPECT、PETなど基礎的なところからその応用的なところまで触れられるなど、広汎な内容を理解することができました。

午前の部の最後を飾ったのは、臨床心理士、言語聴覚士、臨床発達心理士でもある早稲田大学教育・総合科学学術院の坂爪一幸教授による「高次脳機能障害“者”理解と障害の無自覚」でした。最初は通院患者における高次脳機能障害の出現率から始まり、高次脳機能障害者への態度、心理反応、障害

の無自覚、病巣、理解と把握、対応など、障害者に対しての心理的な事項を中心に話を繰り広げられました。また、動物実験で実証されたエビデンスを基に、障害の無自覚の診療場面での現れ方と留意点を説明されました。以上の内容はこれまで知識があった医学的な視点とは異なり、今後の患者さんの診療と対応を行っていく上でとても参考になりました。

午後の最初の講義は、高次脳機能障害の作業療法で経験豊富な、東京都リハビリテーション病院の倉持 昇先生による「高次脳機能障害のリハビリテーション」でした。高次脳機能障害者の外来訓練による就労支援から始まり、半側空間無視、記憶障害、遂行機能障害のリハビリテーション方法、具体的就労支援手法の症例を交えてわかりやすく講演していただきました。高次脳機能患者への具体的なリハ・アプローチについてよくわかり、とても参考になりました。

当日最後の講義は、「高次脳機能障害者の就労支援～復職への地域連携の実際～」が、高齢者協同企業組合秦阜理事長 高橋玖美子先生(元 高崎健康福祉大学健康福祉学部保健福祉学科助教授)により行われました。東京都でのお仕事である「高次脳機能障害者社会復帰支援マニュアル策定事業」の成果から始まり、最近の地域交流センター「悠々」での復職支援の事例を細かく説明していただきました。具体的な事例についてのアプローチはもちろん参考になったのですが、特に困難な症例に立ち向かっていくバイタリティには改めて敬服いたしました。

以上をもって、今回のセミナーは終了となりました。高次脳機能の分野は分りにくく、患者さんの個性が高い分野でアプローチが困難と日々感じていますが、今回のセミナーをきっかけに、より診療の質を高めていきたいと思いました。

(斉藤 淳)



# 呼吸リハビリテーションセミナー報告

2010年9月18日～20日の日程で、兵庫医科大学において「第10回兵庫医科大学呼吸リハビリテーションセミナー」が開催されました。80名の参加者に対し3日間を通して総勢14名の講師陣による、内容の凝縮されたセミナーとなりました。

初日には、当セミナーで講演いただくことが恒例となりました慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室教授の里宇明元先生に「呼吸リハビリテーション最新の動向」についてご講演いただきました。今年のトピックとして、振動法やインターバルトレーニングに関する知見をご紹介いただきました。「急性期の呼吸管理」の講義では宝塚市立病院の妙中 信之先生にお越しいただき、呼吸管理における基本的考え方やポジショニングがガス交換に及ぼす影響についてなど、これまで広く考えられてきた知見から更に深く踏み込んだ呼吸不全の病態生理についてご講演いただきました。初日にはこの他にも、神戸百年記念病院 尾崎 孝平先生の「自発呼吸のフィジカルアセスメント」や兵庫医科大学リハビリテーション医学教室 道免和久先生の「呼吸のキネジオロジー」など例年好評を博している講義も行われました。

2日目には小児の呼吸管理および呼吸理学療法について、兵庫医科大学小児科の皆川京子先生や、兵庫医療大学リハビリテーション学部の森沢知之先生にお越しいただき、小児患者に対する基本的考え方とアプローチの実際についてご教授いただきました。当セミナーへは小児領域で勤務されている参加者の方も多く、熱気あふれる雰囲気に包まれながらの時間となりました。「慢性期における呼吸管理」では大垣市民病院の安藤守秀先生にご講義いただき、NPPVの低コンプライアンス症例への対応策などのトピックを取り上げていただきました。2日目の講義後には懇親会が行われ、講義時間の緊張感とは一転した和やかな雰囲気の中、受講生と講師の方々の親睦が深められました。

3日目の実技講習では兵庫医科大学の森沢知之先生、兵庫医科大学病院の眞淵 敏先生に評価手技、治療手技の講習を行っていただきました。実技実習での受講生の積極性や熱意に十分に伝えるべく、指導アシスタントとして兵庫医科大学病院リハビリテーション部スタッフも参加し質の高い実習を

## 講師紹介 (講義順)

- 山内 順子先生 (医誠会病院麻酔科)
- 尾崎 孝平先生 (神戸百年記念病院麻酔科)
- 道免 和久先生 (兵庫医科大学リハビリテーション医学教室主任教授)
- 里宇 明元先生 (慶應義塾大学リハビリテーション医学教室教授)
- 眞淵 敏先生 (兵庫医科大学病院リハビリテーション部主任技師)
- 妙中 信之先生 (宝塚市立病院病院長)
- 皆川 京子先生 (兵庫医科大学小児科(NICU))
- 森沢 知之先生 (兵庫医療大学リハビリテーション学部)
- 宇都宮明美先生 (兵庫医科大学病院看護部)
- 児玉 典彦先生 (兵庫医科大学病院リハビリテーション医学教室)
- 安藤 守秀先生 (大垣市民病院呼吸器科)
- 間瀬 教史先生 (甲南女子大学看護リハビリテーション学部教授)
- 高橋 哲也先生 (兵庫医療大学リハビリテーション学部教授)
- 上村 洋充先生 (大阪鉄道病院リハビリテーション科)

目指して行いました。

3日間の長丁場でしたが受講生皆様が無事に修了し、満足した表情でそれぞれの岐路に着かれておられました。皆様の職場でセミナーを通し学んだことが活かされていることを切に願いつつ、講習会報告を締めさせていただきます。(笹沼直樹)

## リハビリテーション 関連職種紹介

14

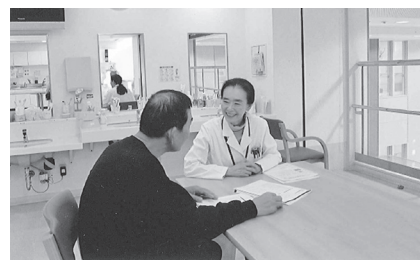
病院に勤務する薬剤師の基本的な業務は調剤で、それは回復期のリハビリテーション(以下、リハ)病院でも変わりありません。みなさんは調剤というと単に薬を調合する仕事と思われるかもしれませんが、しかし、薬剤の有効性・安全性を確保し患者さんに対して最適な薬物療法を行うためには、医師の処方箋通りに薬剤を正確かつ迅速に調製・調合するだけでは十分ではありません。1993年に帯状疱疹治療薬ソリブジンがフルオロウラシル(抗がん剤)との併用で16人の死者を出した薬害事件であるソリブジン事件が発生しました。それ以後、調剤の質的転換が行われました。すなわち、単独で使えば有効で安全な薬剤も、併用薬によっては致死的な副作用が発現することがあるのです。

よって、より薬物療法の安全性を高めるために薬剤師は処方箋を受け取った段

## 薬剤師

階で、このまま投薬すると問題が発生しないか、①患者情報(疾患名、腎・肝機能、臨床検査値、体質、薬物血中濃度等)や他施設で処方された薬剤などをアセスメントして薬物療法全体(薬剤選択、投与量、投与方法等)について判断し、疑問点があれば疑義照会して、最適な処方提案を積極的に行った後、薬剤を調製・調合します。そして、②調剤した薬剤が適切に使用されるために個々の患者さんに合わせた説明を行うこと、③正確に使用された後、薬剤が効率良く効果を発揮しているか見定めること、④その結果を処方へフィードバックすること、が重要で、①～④からなる一連のサイクルを調剤と位置づけています。

それに加え、創薬段階では見出せなかった有害作用、相互作用、適応外使用の問題など、現在のように薬物療法が高度化・複雑化する中で、医療過誤を防ぐため、薬学の基盤で薬剤業務を行うリスクマネージャーとして、薬剤師の役割が重要性を増しています。その役割を生かす、リスクを回避するために医療スタッ



フとの連携も欠かせません。最近、臨床検査技師から入院2日目で血清K超異常値の患者さんの連絡を受け、持参の漢方薬の副作用の可能性を主治医に報告し、服薬中止と抗アルドステロン薬の使用を提案した結果、正常化が図られた例がありました。

また、患者さんあるいはご家族が直接薬剤科に相談にみえることもあります。薬物療法に何を求めておられるのか、どんな不安を感じておられるのか、現在リハ中の障害と向き合う気持ちをお聴きする良い機会となります。このように、リハ病院においてもリハ・チームの一員として、薬剤師の専門性を活かし、患者さんの相談が今後ますます広がってくると考えています。今後とも薬剤師をよろしくお願いします。(井上紀子)